

「信頼し、信頼され続けるエルナーブランド」を目指して

ELNA



平成19年12月期 決算説明会
～ 成長路線への回帰 ～

2008年2月29日 エルナー株式会社



All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

エルナー株式会社 代表取締役社長の青野でございます。

本日のご説明内容

- ・ 平成19年12月期 通期業績のご説明
 - ・ 連結決算の概要
 - ・ 事業セグメント別損益（コンデンサ事業）
 - ・ 事業セグメント別損益（プリント回路事業）
- ・ 経営方針および平成20年12月期 業績予想
 - ・ 経営方針と具体的な取組み
 - ・ 平成20年12月期 業績予想
- ・ エルナーの製品展開

本日は、平成19年12月期通期業績及び今後の経営方針についてご説明申し上げます。

本日のご説明内容

・平成19年12月期 通期業績のご説明

- ・連結決算の概要

- ・事業セグメント別損益（コンデンサ事業）
- ・事業セグメント別損益（プリント回路事業）

・経営方針および平成20年12月期 業績予想

- ・経営方針と具体的な取組み
- ・平成20年12月期 業績予想

・エルナーの製品展開

先ず、平成19年12月期の連結決算についてご説明申し上げます。

- . 平成19年12月期 連結決算 ~ 大幅増益を実現

【平成19年12月期連結損益計算書 概要】

【単位:百万円】

	平成18年12月期		平成19年12月期		前年比	
	金額	売上高比	金額	売上高比	増減額	増減率
売上高	37,273	100.0%	39,203	100.0%	1,930	5.2%
コンデンサ事業	13,674	36.7%	13,395	34.2%	279	0.2%
プリント回路事業	23,599	63.3%	25,808	65.8%	2,209	9.4%
営業利益	867	2.3%	2,131	5.4%	1,264	145.8%
コンデンサ事業	314	2.3%	315	2.4%	629	-
プリント回路事業	1,181	5.0%	1,816	7.0%	635	53.7%
経常利益	316	0.8%	1,435	3.7%	1,119	354.0%
当期純利益	189	0.5%	1,292	3.3%	1,103	581.7%

All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

3

連結売上高は、前年比5.2%増の392億3百万円となり、当社創業以来最高の売上高を達成いたしました。

コンデンサ事業におきましては前年並みの133億9千5百万円にとどまりましたが、プリント回路事業におきましては、258億8百万円となり、大きく売上を伸ばすことができました。

営業利益につきましては、21億3千1百万円となり、大幅増益となりました。

コンデンサ事業におきましては、3億1千5百万円と、5期ぶりの営業黒字化となりました。プリント回路事業におきましては、18億1千6百万円となりました。

経常利益は14億3千5百万円、当期利益は12億9千2百万円となり、いずれも大幅な増益となりました。

- . 平成19年12月期 連結決算 ~ 財務体質が改善

【平成19年12月期連結貸借対照表 概要】

【単位:百万円】

	平成18年12月期		平成19年12月期		前年比	
	金額	総資産比	金額	総資産比	増減額	増減率
総資産	35,168	100.0%	33,077	100.0%	2,090	5.9%
負債	28,456	80.9%	24,950	75.4%	3,506	12.3%
うち有利負債	16,263	46.2%	12,349	37.3%	3,914	24.1%
純資産	6,711	19.1%	8,127	24.6%	1,415	21.1%
うち少数株主持分	1,051	3.0%	1,086	3.3%	35	3.3%
自己資本比率	16.1%		21.3%		5.2%	
総資産利益率(ROA)	0.6%		3.8%		3.2%	
純資産利益率(ROE)	4.7%		20.4%		15.7%	
D/Eレシオ	2.42倍		1.52倍		0.9倍	

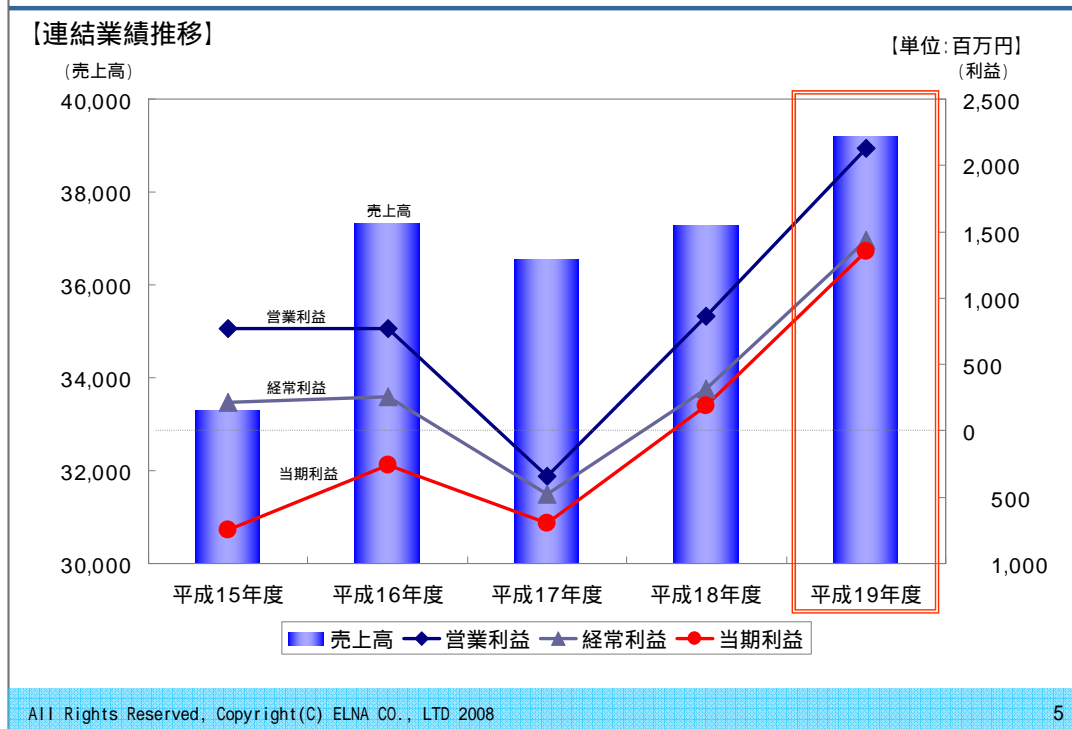
All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

4

負債の圧縮、利益による純資産の増加により、自己資本比率は20%の大台を回復いたしました。

引続き株主価値の向上を図るため、事業面に止まらず、各種財務施策を実施してまいりる方針であります。

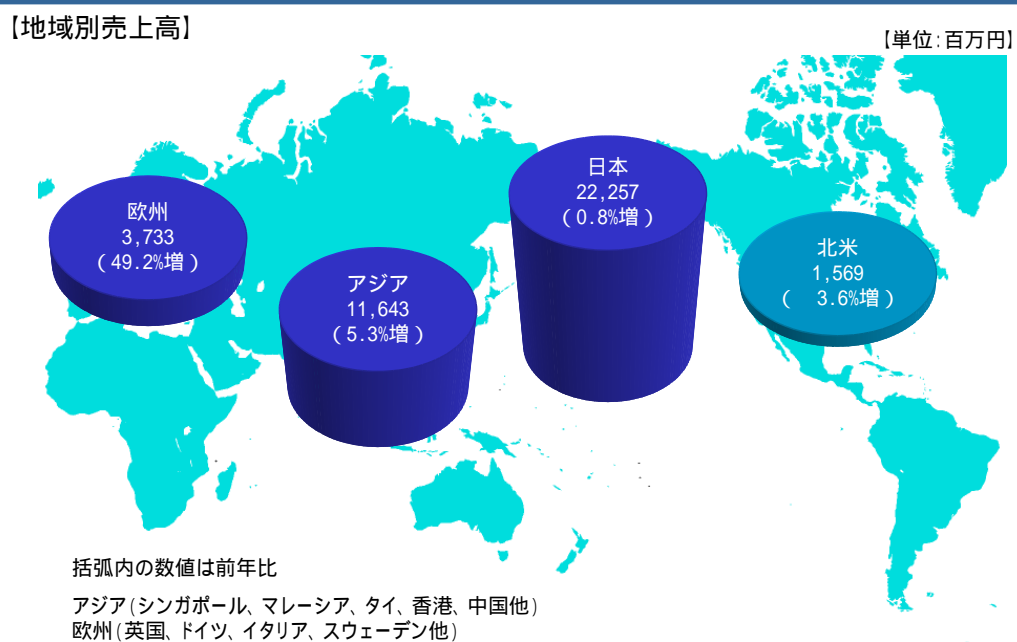
・ 連結業績の推移 ~ 成長路線への回帰



当社は平成15年度から平成17年度にかけて、3期連続して当期純損失を計上していましたが、平成18年12月期には黒字化を達成し、平成19年12月期には大きく業績を伸ばすことができました。

平成20年12月期以降は「成長路線への回帰」をキーワードに、更なる収益性の向上に努めてまいります。

- 地域別売上高 ~ アジア・欧州で売上拡大



All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

6

続いて、地域別の売上高についてご説明申し上げます。

平成19年12月期は、アジアおよび欧州での売上高が伸張いたしました。

欧州においては車載用コンデンサが、アジアにおいてはプリント配線板が大きく伸張いたしました。

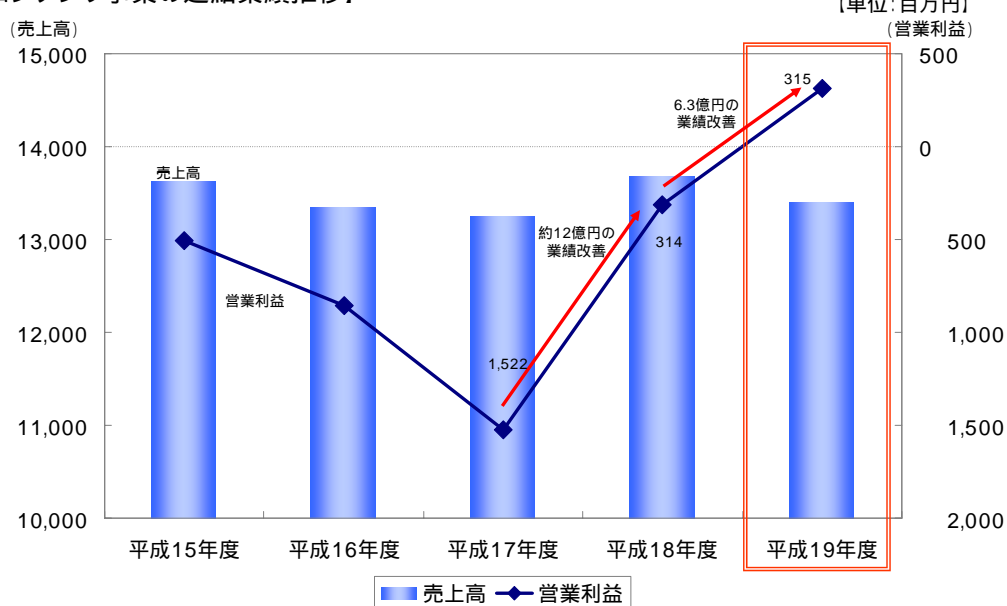
本日のご説明内容

- ・平成19年12月期 通期業績のご説明
 - ・連結決算の概要
 - ・事業セグメント別損益（コンデンサ事業）
 - ・事業セグメント別損益（プリント回路事業）
- ・経営方針および平成20年12月期 業績予想
 - ・経営方針と具体的な取組み
 - ・平成20年12月期 業績予想
- ・エルナーの製品展開

続いて事業セグメント別の損益についてご説明いたします。
先ず、コンデンサ事業の業績についてご説明いたします。

業績推移 ~ 利益体質への変革

【コンデンサ事業の連結業績推移】



All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

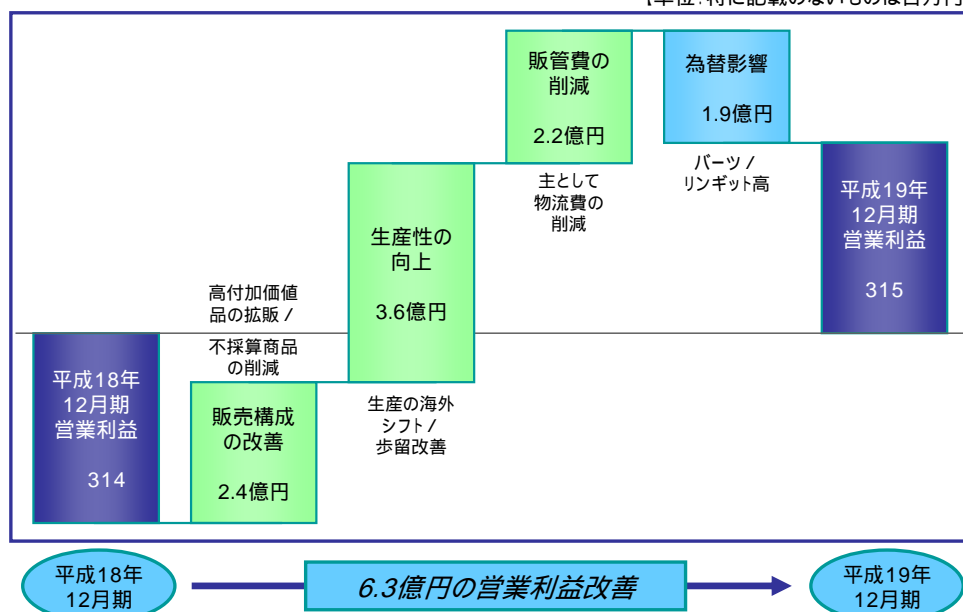
8

先ほどもご説明申し上げましたとおり、コンデンサ事業におきましては、不採算商品の削減により、売上高はほぼ前年並みの133億9千5百万円にとどまりましたが、営業利益につきましては3億1千5百万円となり、2期連続して大幅な業績改善を実現いたしました。

業績改善の主要因 ~ 3つの要素による改善

【コンデンサ事業の業績改善要因】

【単位: 特に記載のないものは百万円】



All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

9

コンデンサ事業の業績改善要因として、大きく3つの要素が挙げられます。

第一に、「販売構成の改善」であります。平成18年12月期以降、高付加価値品の拡販、不採算商品の削減に取り組む、その成果が平成19年12月期に大きく発現いたしました。

第二の要因として、「生産性の向上」が挙げられます。

海外工場における生産技術の向上に伴い、汎用品や一部の高付加価値品の生産を海外に移転することができ、製造コストを大きく低減することができました。

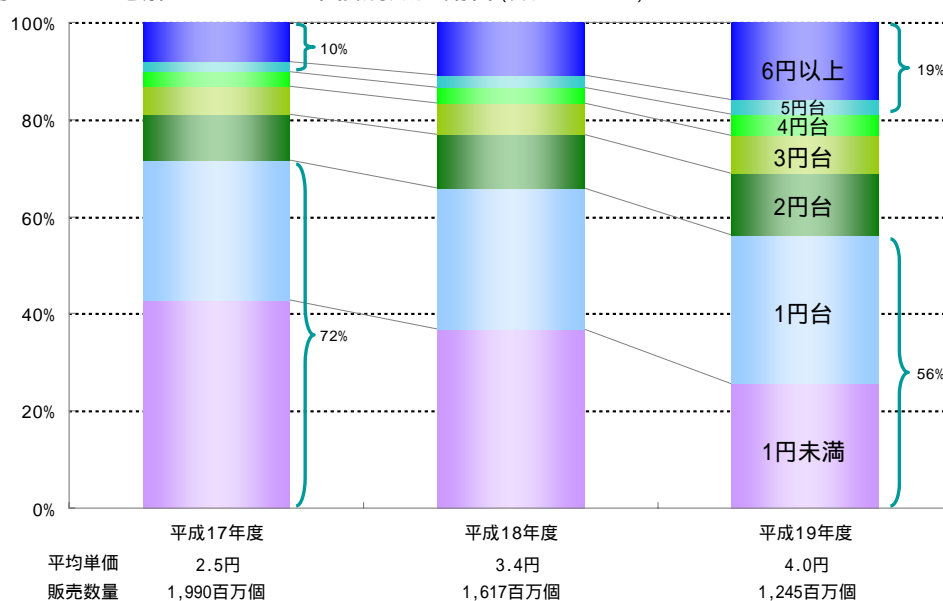
第三の要因として、「販管費の削減」(主として物流費)が挙げられます。

既に公表させていただいておりますが、当社は平成18年12月期より国内外の物流改革に取り組んで参りました。その結果として、物流費を大幅に削減することができました。

これらの施策は、平成20年12月期以降も継続的に取り組む方針です。

- . 販売構成の改善 ~ 平均単価は2年間で約1.6倍に

【小型アルミ電解コンデンサの単価別販売割合(数量ベース)】



All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

10

販売構成の改善について、少し補足をさせていただきます。

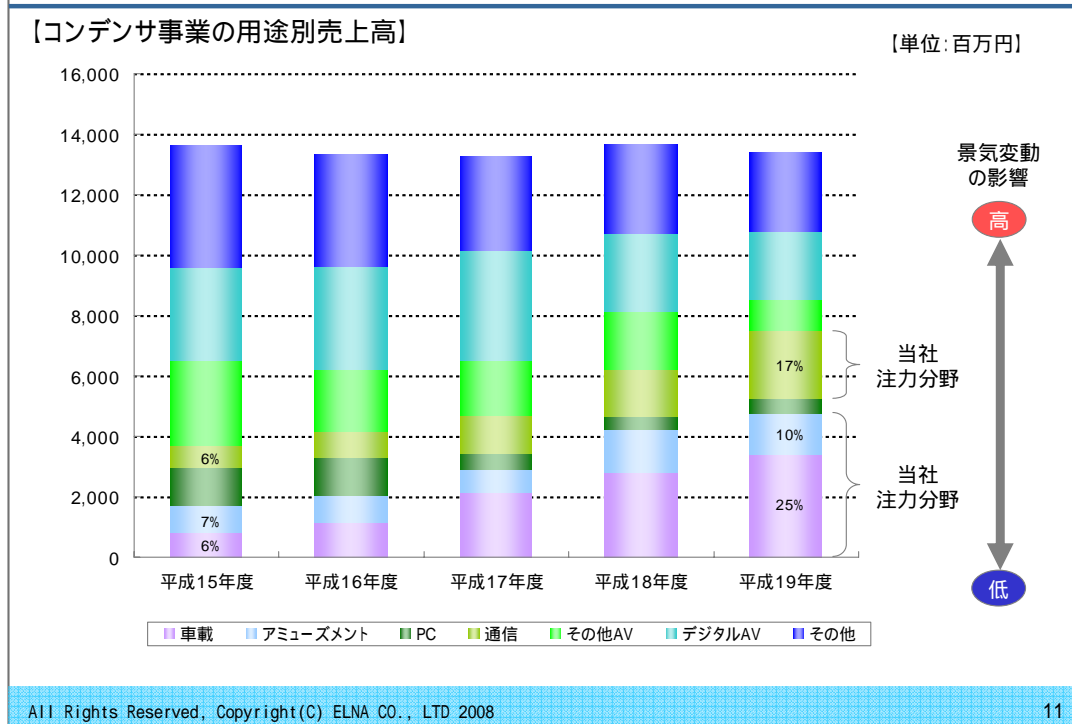
規格 / 寸法等により、一概には言い切れませんが、コンデンサは価格が高いほど付加価値も高い傾向にあります。

当社主力商品である小型アルミ電解コンデンサについて、平成17年度におきましては、売上高の72%を1個あたり2円未満の廉価品が占めておりましたが、平成19年12月期にはその割合が56%まで低下いたしました。その反面、1個あたり5円以上の付加価値の高い商品につきましては、10%から19%にまで高まりました。

これに伴い、小型アルミ電解コンデンサの平均単価は2年間で約1.6倍となりました。

このように、付加価値の高い、価格の高い製品の販売比率が、この2年間で大きく伸張し、営業利益の改善に繋がりました。

用途別売上高 ~ 不況に強い体質の構築



次に、用途別の売上高についてご説明いたします。

景気変動の影響を最小限に止めるため、当社は高付加価値品の中でも特に、欧州における車載用コンデンサおよびゲーム機器(アミューズメント)用コンデンサの拡販に注力して参りました。

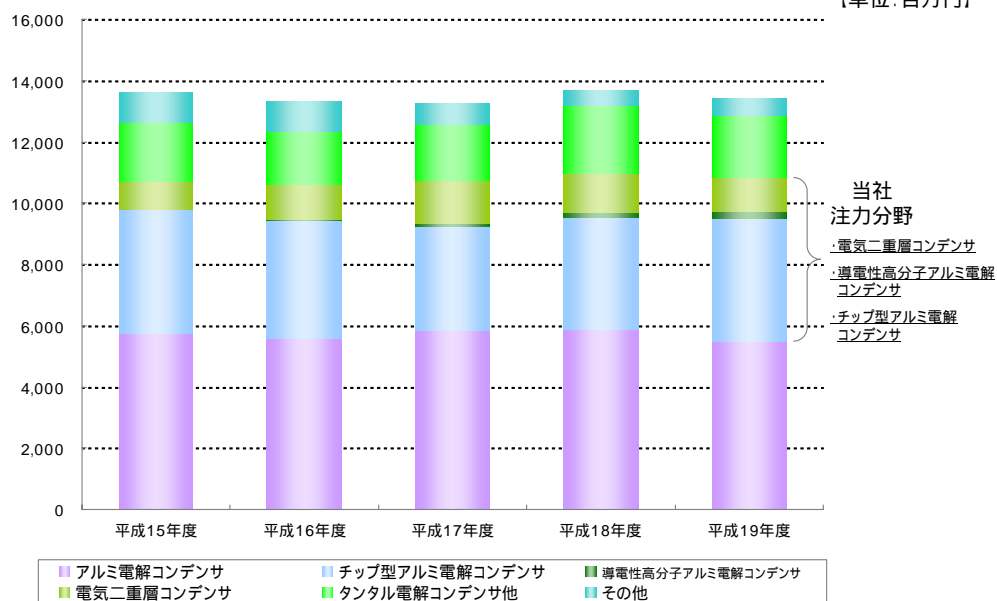
その結果として、売上高全体に占める車載用コンデンサの占める割合は25%に、ゲーム機器用コンデンサは10%にまで高まりました。

今後も車載用コンデンサ、ゲーム機器用コンデンサの拡販により事業基盤の強化を図るとともに、通信機器向けへも注力し、収益性を高めていく方針です。

・ 品目別売上高 ~ 品目別構成に大きな変化はない

【コンデンサ事業の品目別売上高】

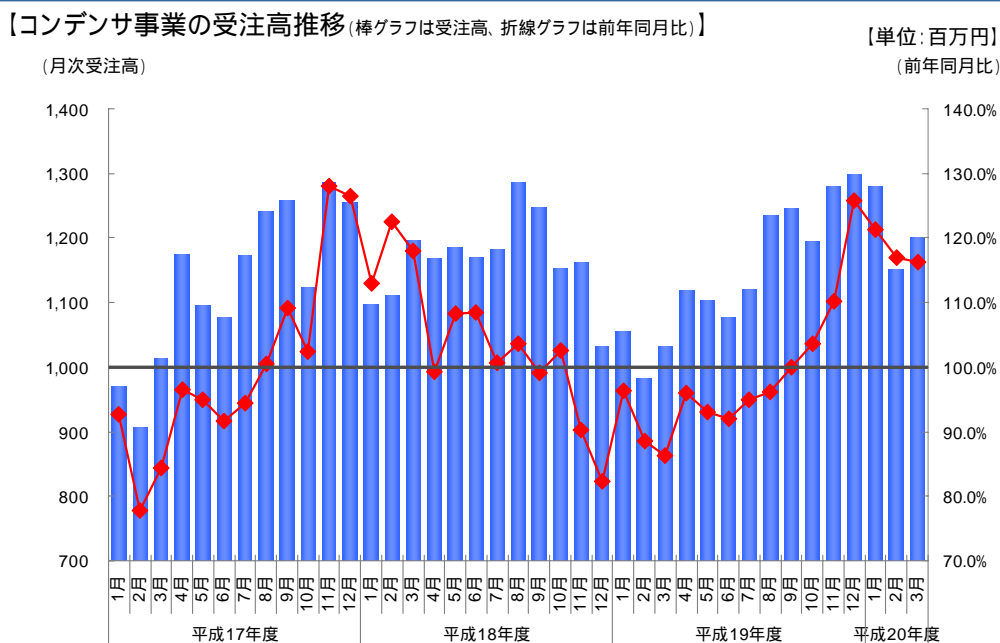
【単位：百万円】



品目別の売上高につきましては、構成には大きな変化はありません。

今後は、導電性高分子アルミ電解コンデンサ、電気二重層コンデンサ、チップ型アルミ電解コンデンサの割合を高めていく方針です。

・ 受注動向の推移 ~ 受注は拡大傾向にある



All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

13

最後に、コンデンサ事業の受注動向についてご説明いたします。

平成19年12月期における受注の動向は、上期においては不採算商品の削減に伴い、一時的に受注高が減少いたしましたが、下期以降は堅調に推移いたしました。

また、米国におけるサブプライムローン問題等の影響が懸念されましたが、当社注力分野への影響は軽微であり、

特に平成19年12月期第4四半期以降、平成20年12月期3月度まで、例年を上回る注文をいただいております。

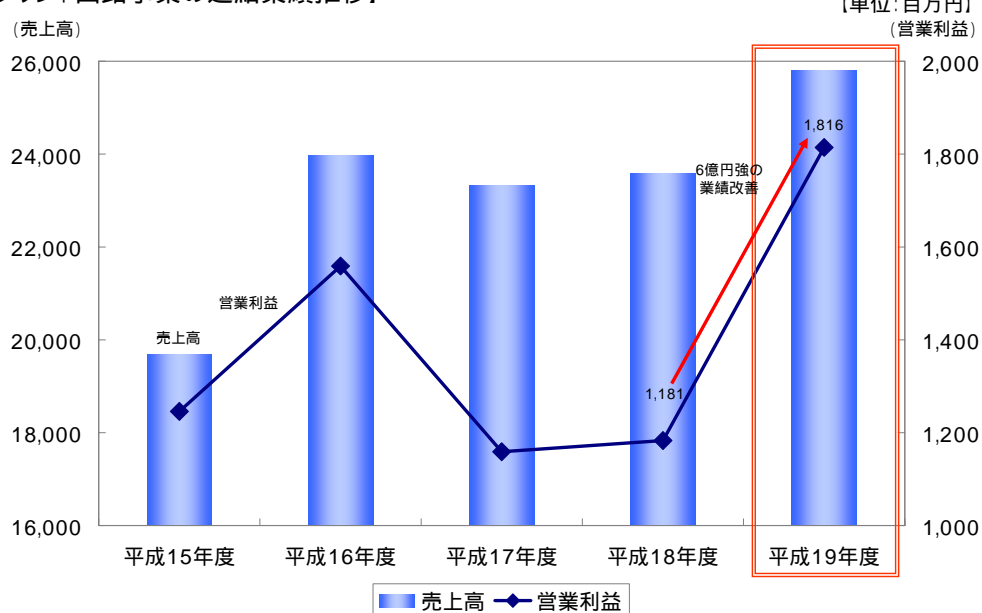
本日のご説明内容

- ・ 平成19年12月期 通期業績のご説明
 - ・ 連結決算の概要
 - ・ 事業セグメント別損益（コンデンサ事業）
 - ・ 事業セグメント別損益（プリント回路事業）
- ・ 経営方針および平成20年12月期 業績予想
 - ・ 経営方針と具体的な取組み
 - ・ 平成20年12月期 業績予想
- ・ エルナーの製品展開

続いて、プリント回路事業の業績についてご説明申し上げます。

- . 業績推移 ~ 原料価格高騰を克服し増益を実現

【プリント回路事業の連結業績推移】



All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

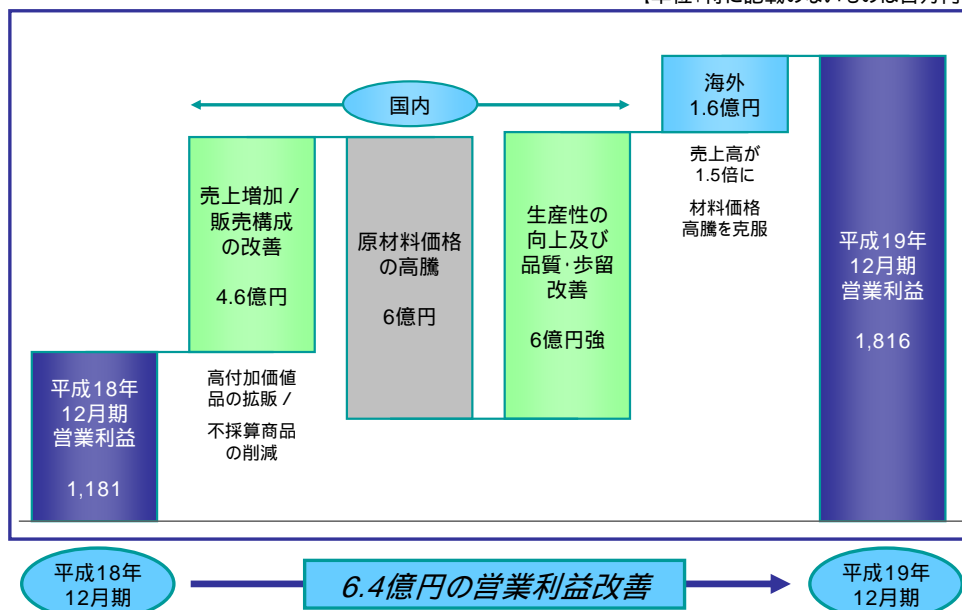
15

平成19年12月期におきましては、銅箔等の原材料価格高騰の影響を受けましたものの、それを上回る増産効果、生産性向上により、増益を確保することができました。

業績改善の主要因 ~ 売上増、生産性向上による増益

【プリント回路事業の業績改善要因】

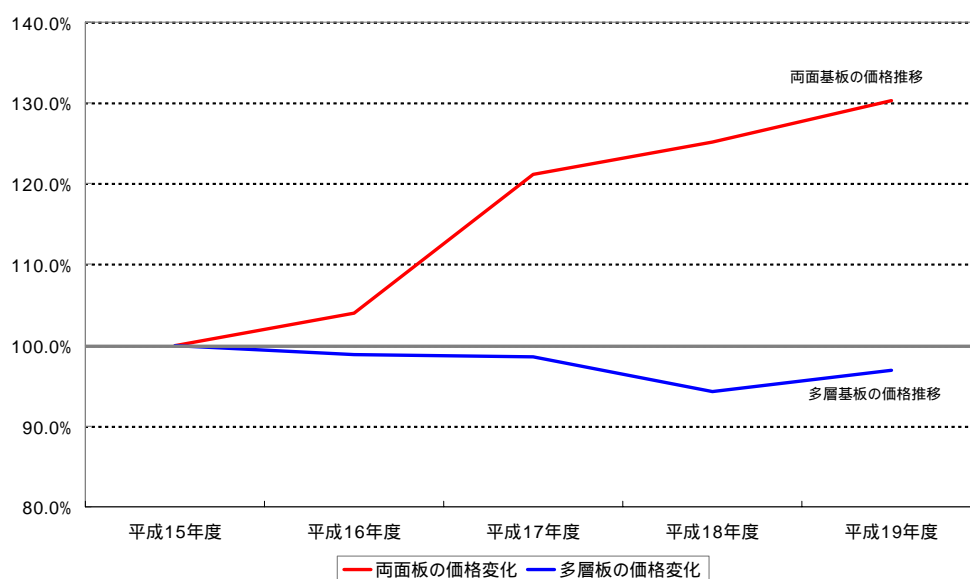
【単位:特に記載のないものは百万円】



プリント回路事業におきましては、原材料価格の高騰により、大幅なコスト増となったものの、生産性の向上および品質・歩留の改善で補うことができました。また、国内外において販売構成の改善を伴う売上高の増加により、大幅な増益を達成いたしました。

- . 単価推移 ~ 平成19年12月期は単価が上昇

【平成15年度を100%とした場合のプリント配線板単価推移】



All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

17

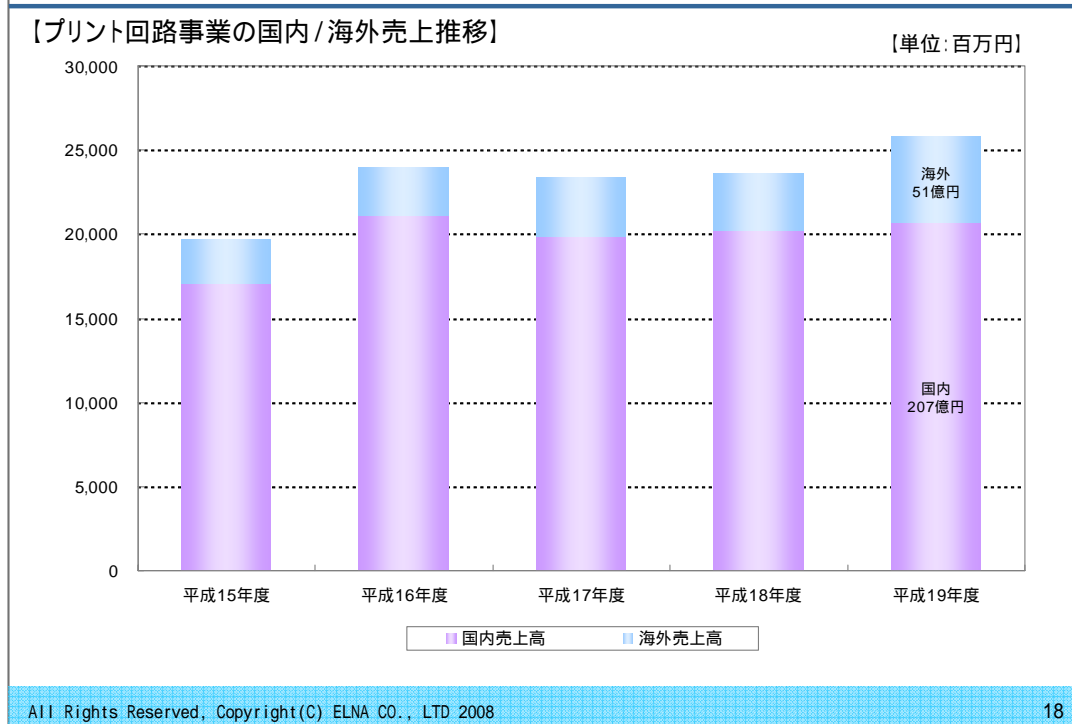
単価の動向につきましては、

両面板においては薄板・超ファイン基板等、付加価値の高い製品に特化していることから、

単価は上昇傾向にあります。

また、多層板においても、平成18年12月期までは下落傾向が続いておりましたが、高多層化の進展により、平成19年12月期には上昇に転じました。

・ . 国内 / 海外売上推移 ~ 国内 / 海外とも拡大傾向

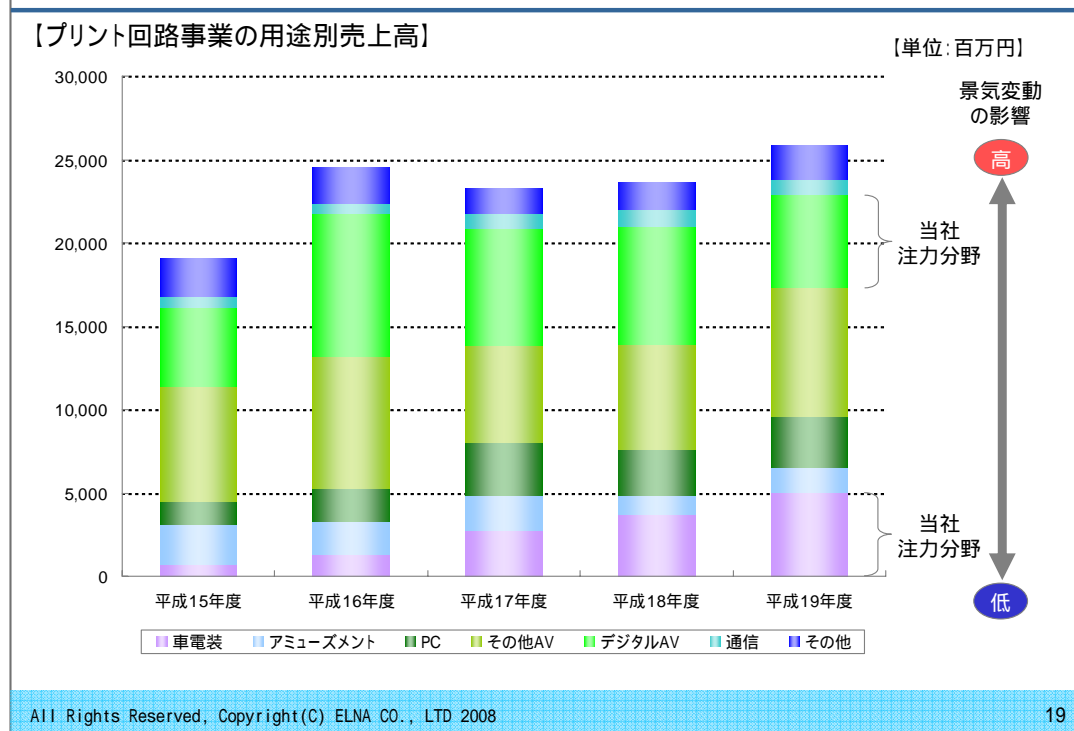


続いて、国内 / 海外別の売上高についてご説明いたします。

プリント回路事業は、国内/海外とも売上は拡大傾向にあります。特に海外において、平成19年12月期の売上高は51億円となり、前年比約1.5倍と大きく伸張いたしました。

プリント回路事業においては、引続き売上高の拡大を国内外で図っていく方針であります。

- . 用途別売上高 ~ 不況に強い体質を構築



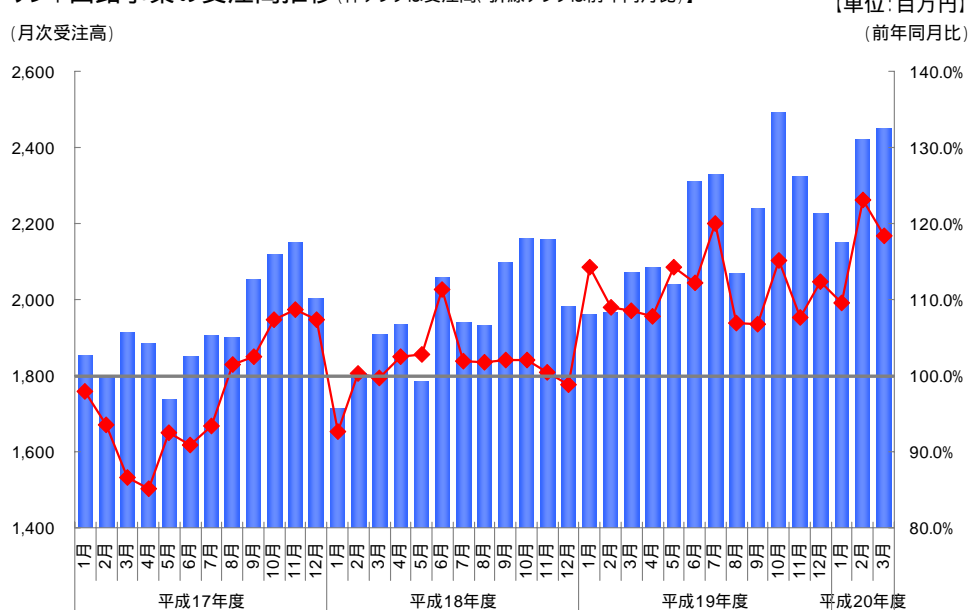
続いて、用途別の売上高について、ご説明いたします。

プリント回路事業におきましても、不況に強い体質を構築するため、景気変動の影響を受けにくい車電装基板の拡販に努めてまいりました。

今後は車電装基板を海外でも積極的に展開することに加え、デジタルAV関連製品についても拡販を図ってまいります。

- . 受注動向の推移 ~ 受注は拡大傾向にある

【プリント回路事業の受注高推移 (棒グラフは受注高、折線グラフは前年同月比)】



All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

20

受注につきましては、平成19年12月期に大きく伸張いたしました。

また平成20年12月期に入ってから、受注は更に拡大傾向にあり、引続き堅調に推移する見込であります。

本日のご説明内容

- ・平成19年12月期 通期業績のご説明
 - ・連結決算の概要
 - ・事業セグメント別損益（コンデンサ事業）
 - ・事業セグメント別損益（プリント回路事業）
- ・経営方針および平成20年12月期 業績予想
 - ・経営方針と具体的な取組み
 - ・平成20年12月期 業績予想
- ・エルナーの製品展開

続きまして、今後の経営方針と、平成20年12月期の業績予想についてご説明申し上げます。

- . 経営方針 ~ 成長路線への回帰を目指して

平成20年12月期は中期計画の最終年。

エルナーは成長路線への回帰を目指して、各種施策に取り組んでまいります。

コンデンサ事業

- 高付加価値品の拡販
(導電性高分子アルミ電解コンデンサ、電気二重層コンデンサ、車載用コンデンサ等)
- 生産性の向上(最適な生産配分の実現、歩留の改善等)

プリント回路事業

- 技術志向商品の拡販
(ビルドアップ基板、薄板・超ファイン基板、高多層基板、車電装基板、産業用基板)
- ASEAN地域への拡販

平成20年12月期は中期計画の最終年にあたります。

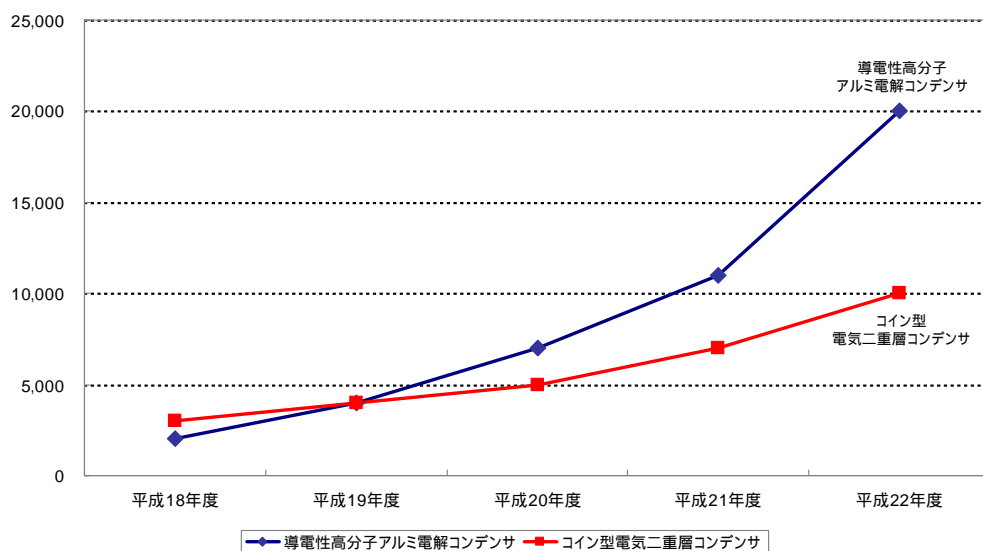
エルナーは、コンデンサ事業においては高付加価値品の拡販、生産性の向上により、プリント回路事業においては技術志向商品の拡販、ASEAN地域への拡販により、成長路線への回帰を目指します。

また、本年度中に次期中期計画を策定し、更なる業績の改善を図ってまいります。

コンデンサ事業の取組み ~ 高付加価値品の拡販

【導電性高分子アルミ電解コンデンサおよび
コイン型電気二重層コンデンサの売上数量推移】

【単位：千個/月】



All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

23

コンデンサ事業におきましては、導電性高分子アルミ電解コンデンサおよびコイン型電気二重層コンデンサを牽引役として、成長路線への回帰を図ります。

特に、導電性高分子アルミ電解コンデンサについては当社独自の技術による低ESR製品により、ゲーム機器等特定の分野へ集中的に拡販してまいります。

コンデンサ事業の取組み ~ 最適な生産配分の実現

【生產品目毎に最適生産地で集中生産し、生産効率を高める】

		現状	今後の方針
生産拠点	エルナー東北 青森工場	導電性高分子アルミ電解コンデンサ <i>大型チップ型アルミ電解コンデンサ</i> コイン型電気二重層コンデンサ <i>巻回型電気二重層コンデンサ</i>	導電性高分子アルミ電解コンデンサ コイン型電気二重層コンデンサ
	タニンエルナー (タイ)	小型アルミ電解コンデンサ (<i>小口径, 大口径</i>) 大型アルミ電解コンデンサ 巻回型電気二重層コンデンサ	小型アルミ電解コンデンサ (<i>大口径</i>) 大型アルミ電解コンデンサ <i>大型チップ型アルミ電解コンデンサ</i> <i>巻回型電気二重層コンデンサ</i>
	エルナーソニック (マレーシア)	小型アルミ電解コンデンサ (小口径) 小型チップ型アルミ電解コンデンサ <i>大型チップ型アルミ電解コンデンサ</i>	<i>小型アルミ電解コンデンサ (小口径)</i> 小型チップ型アルミ電解コンデンサ
	立揚電子 (中国)	タンタル電解コンデンサ	タンタル電解コンデンサ

All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

24

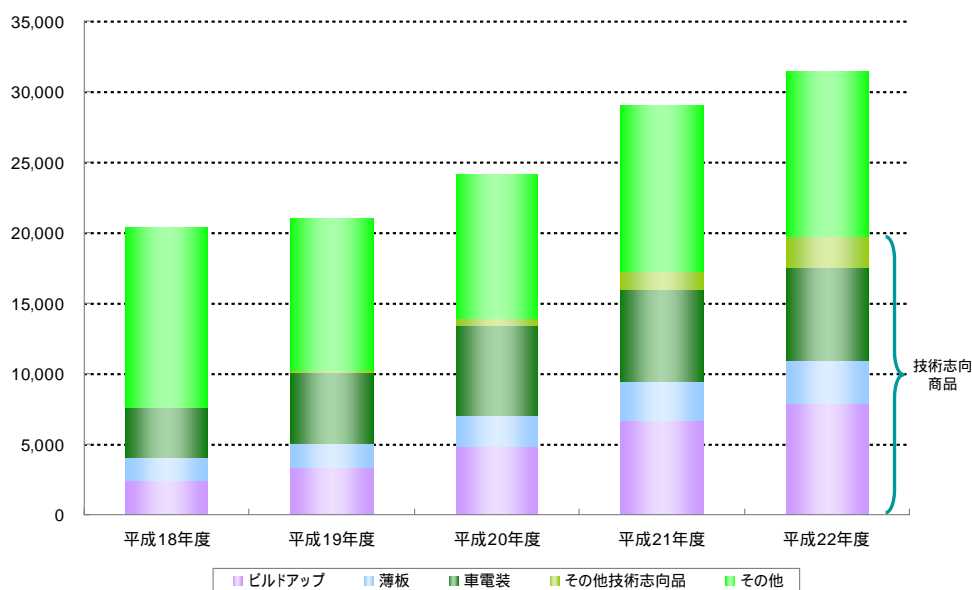
現状は、一部の生產品目について、複数の拠点で生産しており、製造上の非効率が生じております。また、技術的には海外で生産可能な品目について、国内の青森工場で生産しているものもあります。

コンデンサ事業におきましては、各品目を特定の生産拠点で生産するとともに、一部の高付加価値品以外は極力海外で生産する体制へ移行してゆく方針です。

プリント回路事業の取組み ~ 技術志向商品の拡販

【プリント回路事業の国内売上高推移】

【単位：百万円】



All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

25

プリント回路事業におきましては、国内については、デジタルAV機器向けにビルドアップ基板を拡販することで、成長路線への回帰を図ります。

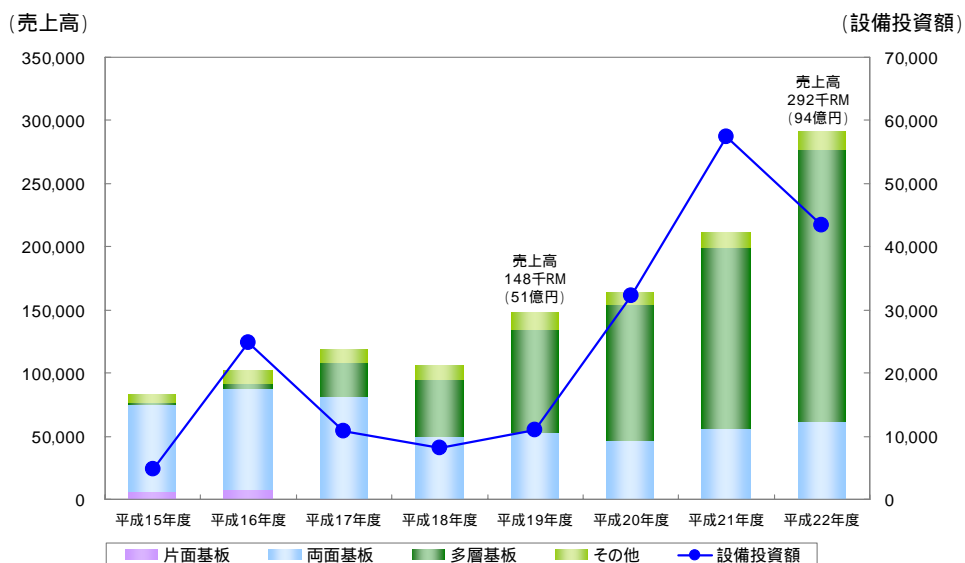
既に、デジタルAV機器を中心に、多くの受注を獲得しており、平成22年度には平成19年度と比べてビルドアップ基板の売上は倍増する見込みです。

また、車電装基板についても、年率5%での成長を見込んでおります。

・ プリント回路事業の取組み ~ ASEAN地域への拡販

【海外での売上高および設備投資額推移】
 (棒グラフが売上高、折線グラフが設備投資額)

【単位: RM(マレーシアリングギット)】



All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

26

ASEAN地域では、当社子会社であるエルナーPCBマレーシア社の生産能力を大きく超える受注があることから、平成20年12月期からの3年間で、総額40億円以上の設備投資を実施、売上高を倍増させる方針です。

本日のご説明内容

- ・平成19年12月期 通期業績のご説明
 - ・連結決算の概要
 - ・事業セグメント別損益（コンデンサ事業）
 - ・事業セグメント別損益（プリント回路事業）
- ・経営方針および平成20年12月期 業績予想
 - ・経営方針と具体的な取組み
 - ・平成20年12月期 業績予想
- ・エルナーの製品展開

最後に、平成20年12月期の業績予想についてご説明申し上げます。

- . 平成20年12月期 業績予想

単位：特に記載のないものは百万円

	平成18年12月期 実績		平成19年12月期 実績		平成20年12月期 予想	
売上高	37,273	100.0%	39,203	100.0%	42,300	100%
コンデンサ	13,674	36.7%	13,395	34.2%	13,000	30.7%
プリント回路	23,599	63.3%	25,808	65.8%	29,300	69.3%
営業利益	867	2.3%	2,131	5.4%	2,750	6.5%
コンデンサ	314	2.3%	315	2.4%	550	4.2%
プリント回路	1,181	5.0%	1,816	7.0%	2,200	7.5%
経常利益	316	0.8%	1,435	3.7%	2,000	4.7%
当期純利益	189	0.5%	1,292	3.3%	1,350	3.2%
1株当り純利益	5.12円	-	31.08円	-	32.45円	-
設備投資額	2,659		1,686			
減価償却費	1,722		1,874			

All Rights Reserved, Copyright(C) ELNA CO., LTD 2008

28

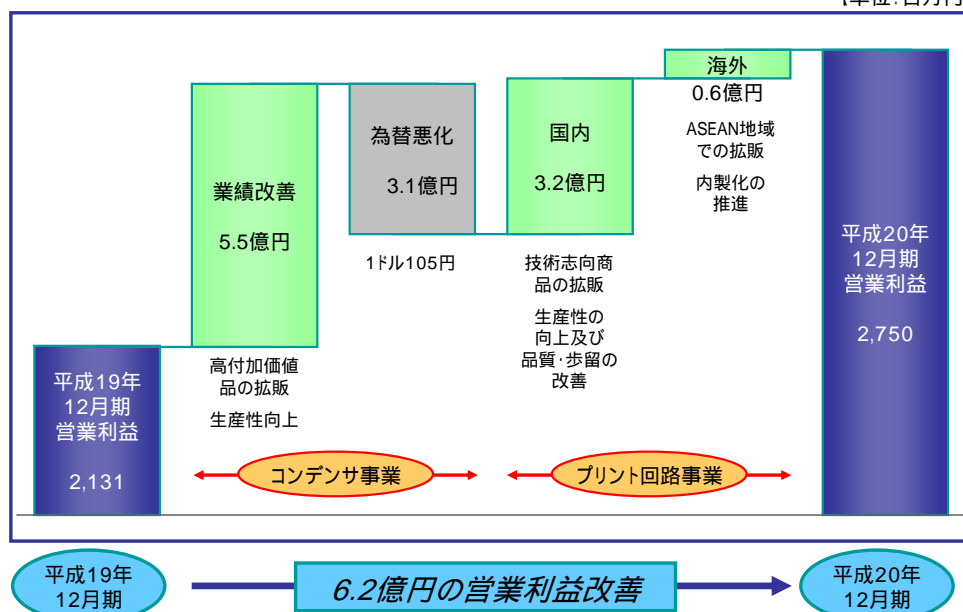
平成20年12月期の業績予想につきましては、連結売上高 423億円、連結営業利益 27億5千万円、連結経常利益 20億円、連結当期純利益 13億5千万円を予想しております。

セグメント別には、ご覧の通りでございます。

平成20年12月期 業績予想

【平成20年12月期の業績改善要因】

【単位：百万円】



平成20年12月期におきましては、

コンデンサ事業において、販売構成改善の他、各種施策の実行により、約5.5億円の業績改善を見込んでおりますが、ドル安の影響により、約3.1億円の利益悪化を予想しております。

プリント回路事業においては、国内は技術志向商品の拡販等により、約3.2億円の業績改善、海外は0.6億円の業績改善を見込んでおります。

本日のご説明内容

- ・平成19年12月期 通期業績のご説明
 - ・連結決算の概要
 - ・事業セグメント別損益（コンデンサ事業）
 - ・事業セグメント別損益（プリント回路事業）
- ・経営方針および平成20年12月期 業績予想
 - ・経営方針と具体的な取組み
 - ・平成20年12月期 業績予想
- ・エルナーの製品展開

以降のページでは、参考情報として、当社の技術・製品を紹介しております。
時間の都合上、説明は割愛させていただきますが、後ほどお時間のある際にご覧いただけると幸いです。

では、ただいまより質問をお受けいたします。ご質問のある方は、挙手をお願いいたします。

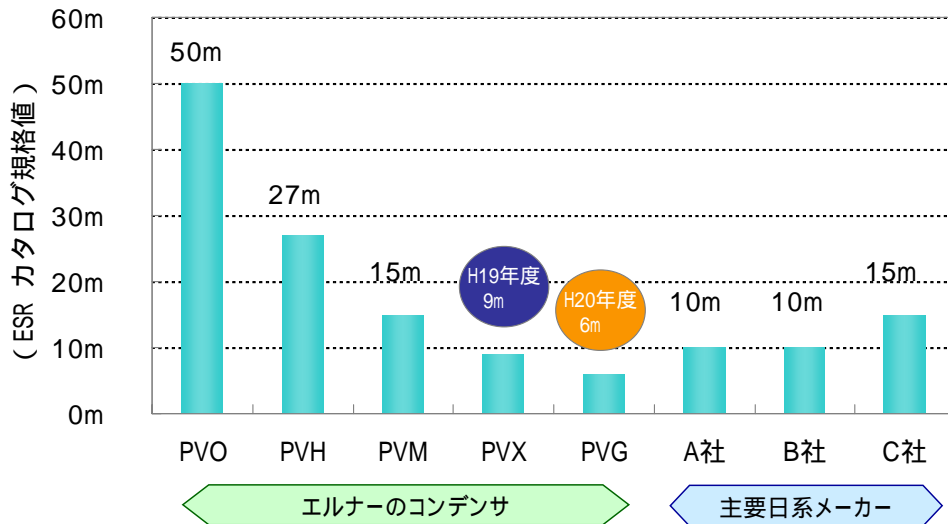
エルナーの展開フィールド ~ コンデンサ

エルナーのコンデンサは、最先端ゲーム機器や自動車に搭載されています。

	 <p>【小型アルミ電解コンデンサ】</p>  <p>【チップ型アルミ電解コンデンサ】</p>
<p>ソニー・コンピュータエンタテインメント社製の「プレイステーション3」には導電性高分子固体アルミ電解コンデンサが、PSP®「プレイステーション・ポータブル」にはコイン型電気二重層コンデンサが使用されています。</p> <p><small>*「プレイステーション」および「PSP」は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。</small></p>	 <p>独・ダイムラー社の「メルセデンス・ベンツ」には小型アルミ電解コンデンサ、チップ型アルミ電解コンデンサが使用されています。</p>
 <p>【導電性高分子固体アルミ電解コンデンサ】</p>  <p>【コイン型電気二重層コンデンサ】</p>	

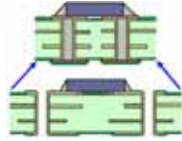
・導電性高分子アルミ電解コンデンサ

エルナー独自の技術により、低ESR化分野において業界をリードしています。(ESR=Equivalent Series Resistance 抵抗値)

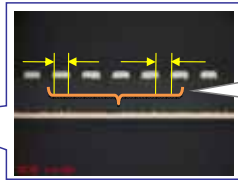
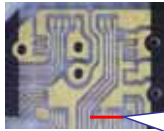


エルナーの展開フィールド ~ プリント配線板技術

「高密度化技術」
「多層化技術」



約1.3mm



【現行】
線幅・線間隔...40 μ m
1cm当り 約125本

「ファイン化技術」

【開発品】
線幅・線間隔 35 μ m
1cm当り 約143本

「薄板化技術」



【現行】
約0.3mm

約30%
極薄化



【開発品】
約0.2mm

本資料に関する注意事項

本資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、戦略、方針、計画、予定等のうち、既に確定した事実ではない記載につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて、当社グループが合理的に判断した予想であり、実際の業績や決定する事実は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

実際の業績に与えるリスク要因や不確実な要素には以下のものが含まれます。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

経済状況の変動によるリスク、為替レートの変動によるリスク、金利の変動によるリスク、価格競争によるリスク、原材料等の調達に関するリスク、海外進出に潜在するリスク、製品の欠陥によるリスク、新商品の開発に関するリスク、環境規制に関するリスク、災害等によるリスク